

基幹研究

「ことばの教室」がインクルーシブ教育システム 構築に果たす役割に関する実際的研究

—言語障害教育の専門性の活用—

平成 27 年度～28 年度

研究成果報告書

平成29年3月



独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所

はじめに

本報告書は、平成 27 年度に専門研究 B 「ことばの教室」がインクルーシブ教育システム構築に果たす役割に関する実際的な研究—言語障害教育の専門性の活用—として研究を開始し、平成 28 年度には基幹研究（障害種別）の枠組みの中で研究を継続してきた研究成果をまとめたものである。

ことばの教室（言語障害通級指導教室及び言語障害特別支援学級）においては、長年にわたる実践・研究の蓄積がありながら、人事異動による担当教員の入れ替わりが激しいこと、教員一人で担当する教室が多いこと、公的機関での研修講座が少ないこと等から、担当教員の専門性の維持・向上・継承が課題とされてきた。

一方で、子どもの成長・発達の課題が「ことば」の側面を通して現れることも多く、ことばの教室が地域の相談窓口の機能をもつ等、ことばの教室の有する専門性に期待もされてきた。インクルーシブ教育システム構築の推進が課題となっている現在、ことばの教室が果たせる役割も大きいと考えられる。

こうした背景から、ことばの教室の専門性を向上させ、継承する方策を検討しつつ、ことばの教室が有している専門性を活用し、インクルーシブ教育システム構築に向けて担える事項を整理する目的で本研究に取り組んできた。

第 1 章では、この研究に着手するに至った背景や、研究の目的、方法、研究体制、及び研究の経緯を述べた。

第 2 章では、専門性の維持・向上・継承に関して、現在各地のことばの教室でどのような取組がなされているのか、どのような専門性が大切と考えられているのか等の状況を、調査やことばの教室を中心とした研究会の発表集録等から整理し、また、研究協力機関等の取組について述べた。

第 3 章では、インクルーシブ教育システムの構築に向けて、学校や地域に対してことばの教室はどのような活動が可能なのか、調査の結果やことばの教室を中心とした研究会の発表集録等から整理し、研究協力機関等の取組について述べた。

第 4 章では、本研究の目的である、専門性の維持・向上・継承と、ことばの教室が果たす役割の関係について、全体を考察した。

さらに、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課の庄司調査官から、ことばの教室がインクルーシブ教育システム構築に果たす役割について寄稿いただいた。

本研究にご協力いただいた研究協力機関、研究協力者をはじめ、調査にご回答いただいた皆様に感謝し、専門性の維持・向上・継承に向けた方策の提案や、インクルーシブ教育システム構築に向けてことばの教室が担える活動の整理をした本報告書が、ことばの教室において有効に活用されることを願っている。

研究代表者 小林 倫代

目 次

はじめに

目次

第1章 研究の概要	・・・ 1
I. 背景と目的	・・・ 3
II. 研究方法	・・・ 5
III. 研究体制	・・・ 7
IV. 研究の経過	・・・ 8
第2章 インクルーシブ教育システム構築に向けた言語障害教育の 専門性の維持・向上・継承	・・・ 11
I. ことばの教室活動状況調査から	・・・ 13
II. 言語障害教育に関する研究会の発表集録から	・・・ 18
III. 言語障害教育関係研究会の各都道府県事務局（代表校）調査から	・・・ 24
IV. 意見交換会での情報から	・・・ 32
V. 研究協力機関・研究協力者による取組	・・・ 38
VI. 考察	・・・ 57
第3章 インクルーシブ教育システム構築に向けた学校・地域における ことばの教室の活動	・・・ 61
I. ことばの教室活動状況調査から	・・・ 63
II. 言語障害教育に関する研究会の発表集録から	・・・ 68
III. 言語障害教育関係研究会の各都道府県事務局（代表校）調査から	・・・ 72
IV. 研究協力機関・研究協力者による取組	・・・ 73
V. 考察	・・・ 89
第4章 総合考察	
ーインクルーシブ教育システム構築に向け「ことばの教室」が果たす役割ー	・・・ 91
I. 言語障害教育の専門性と学校・地域におけることばの教室の役割	・・・ 93
II. 今後の課題	・・・ 97

寄稿 . . . 99

ことばの教室がインクルーシブ教育システム構築に果たす役割

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 庄司美千代

資料 . . . 111

資料Ⅰ. ことばの教室活動状況調査

資料Ⅱ. 言語障害教育関係研究会の各都道府県事務局（代表校）調査

おわりに